

無辜を処罰することなかれ

高橋 司 たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。「高橋・日浦法律事務所」代表。

最近報道されているパソコン遠隔操作事件についても一度考えてみたい。犯人がPCの遠隔操作などで書き込んだ内容は辛辣をきわめていた。報道によれば、①横浜市ウエブサイトに「鬼殺銃蔵」という人物が横浜市内の小学校で無差別殺人を行う旨掲載され、②大阪市公式ホームページ上には「トラックとナイフで無差別殺人をする」という秋葉原通り魔事件を彷彿とさせる内容が掲載され、③首相官邸の公式サイト上には「桜田門前で皇居ランナーを無差別殺人」と掲載された。また、④日本航空公式サイト上には「成田発ニューヨーク行の006便に爆弾を仕掛けた」と書き込まれ、麻原彰晃をはじめとするオウム真理教の信徒全員の身柄釈放が要求される内容が書き込まれた。さらに、⑤お茶の水女子大学付属幼稚園の公式サイト上に、「わるい天皇制を終わりにしてやる」と書き込み、悠仁親王らを殺害する内容が記載され、⑥伊勢神宮に関しては、「悪い日本の全体的主義、軍国主義を打破」「伊勢神宮のボスは今すぐ従軍慰安婦・強制連行・南京大虐殺被害者に土下座

したあと切腹しろ」と書き込まれるに至った。その一つひとつの内容は不特定多数の国民に多大な危険と不安を与える内容であって到底許されるものではない。これらの投稿は、平成24年6月下旬ころから同年9月上旬ころにかけて継続的に行われた。犯人の口はトロイプログラムなどを用いて言葉巧みに一般市民を犯人が指定するウエブサイトにリンクさせ、さらにクリックさせることでPCを遠隔操作できるようにして実現された。そして、捜査機関は書き込み時のログに残っていたIPを根拠に4人の無辜(=罪のないこと)の男性を次々と逮捕していったのである。

ここでは、横浜市ウエブサイトに掲載された事案で逮捕・勾留され、ついには少年審判で保護観察処分に出せられた大学生を取り上げたい。この大学生は横浜市のウエブサイトとは無関係であり無実の男性であった。当然、逮捕当初は当然犯行事実を否認していたが、しかし、最終的には自ら犯行を行ったことを認めってしまった。問題は大学生がどういう経緯でどのように自供していったかである。

報道によれば、この大学生は警察官から犯行動機を問われ、「小学生の頃から友達が少ないから。楽しもうな小学生を見て、自分にはない生き生きさがあり、困らせてやろうと思った」と自供したとのことである。また、どうしてこの小学校を選んだのかと問われ、「インターネットで検索して最初に出てきたから」と答え、さらに、どうして「鬼殺銃蔵」と名乗ったのかを問われると、「鬼ころし」という日本酒をたまたまコンビニエンスストアで見かけたからと供述し、どうして「銃蔵」なのかと聞かれて、「銃が好きだから」「不吉な数字をもじった」、「忌み数である13からジューゾウと読ませた」と供述したとのことである。もちろん、これらはすべて虚偽の内容だが、捜査機関の取り調べにより、無実の者が偽名を名乗った理由、犯行動機などが合理的に構築されていくのである。

この事件では、その当初、犯行を否認していた大学生が犯行を自供する際、警察官から「認めないと少年院送りとなる」と諭されて犯行を認める「上申書」を書いた。その後、大学生は神奈川県警から横浜地方検察庁へ送検。検察庁は、上申書の内容とほぼ内容が一緒の検察官面前調書を作成しただけでなく、250文字に及ぶ無差別殺人の予告内容が2秒ほどで作成されることと自体、通常はあり得ないことだという疑念があったにもかかわらず、大学生が「心不乱に打ち込んだ」と供述すると検察官はそれ以上追及しなかつたという。

大学生は、この「上申書」を作成する前、10分ほど何も言わずに泣き続けた後、上申書を作成したそうである。何と無念であったことであろうと思う。県警も検察庁も真実を語る大学生のことを安易に信用せず、自らの過ちに気がつきつけとなり得る「わずか2秒間での書き込み完了」という事実も「できるだろう」と軽信して家庭裁判所に送致したのである。

目の前にいつも無実の者が処罰される危険性が横たわる。その元凶の一つは、警察官や検察官自らの「無知の知」を軽視する慢心さであろうと思う。